

## ◎リンデロン注 [注]

【重要度】 【一般製剤名】 ベタメタゾンリン酸エステルナトリウム (U)

betamethasone sodium phosphate 【分類】 合成副腎皮質ホルモン剤

【単位】 ◎2mg/A [0.4% 0.5mL]

【常用量】 用法参照

【用法】 1回1~4管を3~6hr毎に静注, 1回1~5管を1日1~2回点滴静注

【透析患者への投与方法】 尿中未変化体排泄率が低いいため減量する必要ない (5) ただし消化管出血・潰瘍形成などに注意 (5)

【保存期 CKD患者への投与方法】 減量の必要なし (3)

【特徴】 ベタメタゾンのリン酸エステルで、抗炎症作用、抗アレルギー作用の他、広範囲にわたる代謝作用を有し、種々の刺激による生体の免疫反応を修飾

【主な副作用・毒性】 誘発感染症、白内障、緑内障、骨粗鬆症、骨髄無菌性壊死、ミオパシー、副腎皮質機能不全など

【tmax】 リン酸ベタメタゾンとして投与してベタメタゾン濃度は10~36min後にピークに達する (Eur J Clin Pharmacol 25: 643-650, 1983)

【代謝】 立体異性体のデキサメタゾンと同様、肝代謝により消失するが、デキサメタゾンに比しクリアランスが低いのは全血/血漿比が高く、Vdが大きいことによる (Eur J Clin Pharmacol 25: 643-650, 1983) 尿中回収される代謝物は、11-デヒドロ体、6β-水酸化体、20-ジヒドロ体、6β-水酸化-20-ジヒドロ体など (1) 6β-水酸化体への変換はCYP3A4が関与 (1)

【排泄】 尿中未変化体排泄率4.8±1.4% [iv, 24hrまで] (1) 約5%が尿中にベタメタゾンとして排泄されるため、腎外クリアランスがほとんど (Eur J Clin Pharmacol 25: 643-650, 1983) 尿中回収物の70%はグルクロン酸抱合体、15~30%が非抱合体 (1) 【CL】 178mL/min (1) 【腎CL】 約10mL/min (1)

【t1/2】 5~6hr (1) terminal T1/2: 6.5hr (Eur J Clin Pharmacol 25: 643-650, 1983)

【蛋白結合率】 64±6% (1) 64% (10) 65% (12)

【Vd】 84L/man (1) 1.8L/kg (10,14) 1.4L/kg (12)

【MW】 516.40 (エステル)

【透析性】 除去されるが、効率的ではないと思われる (5) データなし (1)

【TDMのポイント】 TDMの対象にはならない【O/W係数】 資料なし (1)

【更新日】 20170413

※正確な情報を掲載するように努力していますが、その正確性、完全性、適切性についていかなる責任も負わず、いかなる保証もいたしません。本サイトは自己の責任で閲覧・利用することとし、それらを利用した結果、直接または間接的に生じた一切の問題について、当院ではいかなる責任も負わないものとします。最新の情報については各薬剤の添付文書やインタビューフォーム等でご確認ください。

※本サイトに掲載の記事・写真などの無断転載・配信を禁じます。すべての内容は、日本国著作権法並びに国際条約により保護されています。